

2020年度 高槻中学校・高槻高等学校 学校評価

1 めざす学校像

■めざす学校像

次代を担う人物を確かに育成する最優の進学校を目指す

■教育方針

確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養う

2 中期的目標

【中期的目標】、【課題を踏まえた実践計画】

① SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)としての教育活動およびコース制の充実

指定2期目初年度のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)は「データサイエンスの素養を持ち先端学力知とグローバルマインドセットを備えた生命科学系リーダーの育成」を、指定5年目のSGH(スーパーグローバルハイスクール)は「医科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成」を目指し、本校の教育内容の特色として、より高度で質の高い教育活動の展開を図る。また、コース制は導入7年目となり、中3以降の学年が、GS(グローバルサイエンス)、GA(グローバルアドバンス)、GL(グローバルリーダー)のカリキュラムに則った学修を進めている。今後はよりコースの特性に応じた教育プログラムの充実を図っていく。

② School Mission「Developing Future Leaders With A Global Mindset」の実現を図る教育活動の展開

本校のミッション実現に向け、卓越した語学力や国際的な視野を持って、世界を舞台に活躍できる次世代のリーダーを育成するための教育活動をより充実させる。

③ 高大連携の教育プログラムの充実

本校は、大阪医科薬科大学との法人統合、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)の指定というメリットを活かし、より多様で質の高い高大連携の教育活動、教育プログラムの充実を図っていく。

④ 「探究型」学習の充実と学力の三要素の育成

本校は、特色教育の一展開として「探究型」学習に取り組んでいる。思考力を重視した問題解決的な学びは、次期学習指導要領、それを踏まえた2020年度以降の大学入試改革においてもキーワードとなっている。そこでは、新しい時代に求められる資質・能力の三つの柱として[知識・技能]、[思考力・判断力・表現力]、[学びに向かう力・メタ認知]が挙げられている。自己評価では、深い学びが実現できているという項目の自己評価が80%となっており、各教科で、知識の習得(インプット)だけではなく、考察と仮説の構築、推論による検証を繰り返す体系的な学びを促し、それを運用(アウトプット)する力を体得させるような学習を、本校の教育活動全体を通じて積極的に取り入れている。また、幅広い学びの成果や活動を記録するポートフォリオを活用し、生徒自身が振り返りや学習計画の改善、キャリアデザインできるよう指導している。さらに、全学年で年度末に学修インタビューを行い、生徒自身が教育活動全般を振り返って省察しプレゼンテーションすることにより、主体的に学ぶ力や意欲の伸長を図っていく。

⑤ 高い学力が確かに身につく指導と成果の検証

進学実績の飛躍的な向上を図るため、各学年が年間計画で取り組む学力向上のための取り組みの実施状況とその成果について、節目節目で検証を行い、学校全体として実効性のある改善策を実施する。また、基礎・基本を徹底し、十分な理解度や到達度をもった上で、知識活用型の発展的な学習に取り組めるよう、特に中学段階における学習指導を徹底する。さらに、生徒の潜在能力を発揮させ、学力を十分に伸ばせるよう全校をあげて学力向上に関する具体的な取り組みを実践していく。

⑥ 徳育教育の充実

生徒が生命を大切に思う気持ちや社会のルールを身につけることができるよう、年間指導計画に基づき道徳教育を継続的に行っている。共学4年目を迎え、服装、挨拶、清掃活動など生活の基本を大切に指導を徹底しながら、徳育教育の充実を図っていききたい。清掃活動が行き届いているという項目の評価は改善しつつあるが(項目24が2016年度48%→2017年度63%→2018年度62%→2019年度72%)、今年度も継続して取り組んでいきたい。平和学習を目的とした中学修学旅行、ボランティア活動の奨励、道徳教育の充実、人権教育の推進等とともに、学校の様々な教育活動を通して、心豊かな人間を育成していききたい。

⑦ 社会貢献活動としてのボランティアの推進

2016年度よりボランティア活動支援センターを校務分掌の中に位置づけ、ボランティア活動を推進している。本校のミッション実現のため、多様で豊かな人間関係にふれる体験を教育活動の中に位置づけ、リーダーが持つべき他者を思いやる心、奉仕の心、課題解決力を育みたい。社会貢献活動を中心に行うボランティア委員会と、生徒募集イベントにおいてボランティア活動を行っている「T-BEST」の活動が、世界や人類の福祉に貢献できる人物の育成に繋がることを期待している。

⑧ 指導力および資質の向上を図る教員研修の実施

本校の特色ある教育の実践には、教員の指導力が不可欠である。教科指導や教育的課題についての学校内外での研修をより充実させ、日常的なOJTの活性化を図っていききたい。大学入試改革、学習指導要領の改定を目前にひかえ、今年度も深い学びを促すアクティブラーニングを推進していくための研修を実施し、教育活動の深化、協働性を高める取り組みを実践していく。

⑨ ICT利活用教育の推進

今後ますます進化を遂げるであろう高度情報化社会を生き抜くために必要なICTスキルを養うため、メディアリテラシーを含めたICT教育を充実させていく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [2020 年実施分]	学校協議会からの意見
<p>〔教員の評価より。自己評価〕</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10%以上の改善項目 30 項目中 16 項目 * 評価 90%以上の項目 14 項目 * 全項目について、経年比較はプラス評価 * 70%以下の項目 1 項目 <p>2020 年度の教員のアンケート結果は、全項目について、経年比較はプラス評価となった。特に経年比較で 10%以上改善した項目で 90%を超える評価項目としては、[項目 4]各教科において、基礎・基本を明確にし、教材の精選・工夫を行っている。86%→98%[項目 5]生徒の実態を踏まえ、指導方法の工夫・改善を行っている。79%→95%[項目 6]各教科の見方・考え方を働かせながら、知識を関連づけたり、考えを形成したり、解決策を考えたり、創造したりする深い学びが実現できている。80%→93%[項目 11]生徒指導において、家庭と緊密な連携ができています。87%→98%[項目 15]グローバルイシュー（地球規模での解決が必要な問題、健康・環境・貧困など）を扱った探究的な教育活動が行われている。73%→93%[項目 16]科学分野において先進的な教育活動が行われている。85%→100%[項目 20]教育活動において、体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づく生徒指導が行われている。74%→90%[項目 26]各教科の備品や教材教具、情報機器などが十分に活用されている。76%→95%。30 項目中 8 項目あり、教科指導、生徒指導における保護者との連携、SSH や SGH の取り組みに対する自己評価が高くなっている。一方 70%以下の項目としては、[項目 22]教職員間の相互理解、信頼関係に基づいた円滑な教育活動が行われている。57%→69%となり昨年度からの改善はみられるが課題として捉え更なる改善のために検討が必要である。</p> <p>〔生徒の評価より〕</p> <p>〔中学生〕</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10%以上の改善傾向 30 項目中 11 項目 * 90%以上の評価を受けた項目 16 項目 80%以上の項目 12 項目 * 中学全体の経年比較マイナス評価項目は 0 項目。 * 70%以下の項目 0 項目 <p>中学生全体の評価としては、経年比較マイナス評価が 70%以下の項目はなかった。しかし、学年で見ると、70%以下の項目として、中 3 の[項目 12]生活指導の方針に共感できますか（65%）があげられる。</p> <p>〔高校生〕</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10%以上の改善項目 30 項目中 20 項目 * 90%以上の評価を受けた項目 3 項目（項目 3・4・8） 80%以上の項目 22 項目 * 高校全体での経年比較マイナス評価項目 1 項目（項目 5 生徒指導の方針 82%→64%） * 70%以下の項目 1 項目（項目 11 生徒指導の方針に共感できますか 82%→64%） <p>高校生の評価では、[項目 11] 生徒指導の方針に共感できますか（82%→64%）が経年比較でマイナスかつ 70%以下の項目がみられる。特に、高 1 の評価が 49%と 50%を切る評価であった。</p> <p>中学・高校ともに、生活指導の方針についての項目について、中 3 と高 1 で 70%を切る評価となった。生徒の思いに耳を傾けながら、学校の方針に理解を得ることができるよう、継続して取り組まなければならない。</p> <p>〔中学保護者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10 以上の改善傾向 30 項目中 1 項目（項目 3 子供は、授業が楽しくわかりやすいと言っていますか。65%→79%） * 90%以上の評価を受けた項目 7 項目（項目 1・9・19・21・24・25・26） * 中学全体での経年比較マイナス評価項目 4 項目（項目 15・23・27・28） * 70%以下の項目 2 項目（項目 4 学習の内容や進度などを、懇談や学年通信…65%→68%）（項目 18 学校でのクラブは活発だと思いますか。52%→56%） <p>〔高校保護者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> * +10 以上の改善傾向 30 項目中 0 項目 * 90%以上の評価を受けた項目 5 項目（項目 9・17・21・24・26） * 高校全体での経年比較マイナス評価項目 3 項目（項目 1・15・27） * 70%以下の項目 1 項目（18 学校でのクラブ活動は活発だと思いますか。68%） <p>〔総評〕</p> <p>アンケート結果からも本校の教育活動の改善に対してあらゆる立場から一定の評価が得られていることがうかがえる。しかし、クラブ活動、生活指導の項目に学年差が見られ、評価が低い項目がある。アンケート結果を踏まえ、改善が必要と思われる項目については真摯に受け止め、継続して改善に取り組みたい。更なる向上のために情報を公開し、学校としての理念や指導方針について、理解を深めて頂けるようご家庭とも連携し教育活動の改革に努めていきたい。</p>	<p>2020 年度に実施された学校評価アンケート結果について、以下、アンケート対象者毎に意見を申し述べます。なお、本アンケートは 2020 年度に実施されたため、学年の表記は 2020 年度のものであります。</p> <p>（保護者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 28 項目中、プラス評価 70%以上が中学校で 26 項目、高校で 27 項目と、保護者の好意的な評価が非常に高い割合を閉めております。前年度と比較してもプラス評価の割合が大きく減少した項目がなく、高い評価が維持されており、保護者の満足度も高いものであると考えられます。特に、項目 9「学校の雰囲気がよく、子供たちが生き生きとしていると思いますか。」、項目 24「学校の施設・設備は学習環境面においてほぼ満足できる環境にありますか。」、項目 26「学校では、子供に関するプライバシーが守られていますか。」、について、前年度に引き続き中学生保護者・高校生保護者ともに 90%以上がプラスの評価をしており、学校生活環境が良好に保たれていることが示されております。今後も高い評価を維持されるよう期待致します。 ・ 中学・高校共に、評価が低い項目は、項目 18「学校でのクラブ活動は活発だとは思いませんか」でした。中学で 56%、高校で 68%となっております。クラブ活動がきっかけで勉学にも熱心に取り組めるようになることもあります。この点、新たなクラブ活動としてダンス同好会が活動を開始するとの報をいただいたことは喜ばしく思います。今後も、勉学に支障のない範囲で、活発なクラブ活動ができるよう取り組みを期待します。 <p>（中学生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すべての項目がプラス評価 70%以上で、90%以上の項目も 16 項目と、昨年度から大幅にプラス評価が増加しております。特に、項目 1「本校の校訓や教育目標を知っていますか」が昨年度 60%から今年度 85%、項目 8「学校は生徒が授業内容で分からないことがあれば、いつでも質問できるような雰囲気がありますか。」が昨年度 65%から今年度 84%、項目 11「学校は社会のルールや社会性が身につくような指導を十分に行っていますか。」が昨年度 49%から今年度 91%、項目 13「基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われていると思いませんか。」が昨年度 66%から今年度 92%と、昨年度プラス評価の割合が低かった項目で大幅に増加しております。アンケート結果が教育内容に反映されたのであろうと思われ、この良好な評価を維持していただきたいと思えます。 <p>（高校生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プラス評価 70%以上が 30 項目中 29 項目と、プラス評価の割合が高い項目が多くなっております。特に、昨年度プラス評価が大幅に低下した項目 1「本項の校訓や教育目標を知っていますか。」、項目 12「基本的な生活主管やマナーを身につけられるような指導が行われていると思いませんか。」、項目 20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めていますか。」については、一昨年度と同等あるいはそれ以上のプラス評価割合となっており、アンケート結果を踏まえて教育・指導内容が改善されたものと思われ、アンケートが有効活用されていることが分かります。 ・ プラス評価が 90%以上の項目も 3 点あります。項目 3「学校生活が充実していると思いませんか。」、項目 4「授業の進度や内容は適切だと思いますか。」、項目 8「先生方は良く協力して日常の教育活動に当たっていると思いませんか。」と、いずれも学校生活全般に関係する項目について高い評価が得られていることは、生徒の学校に対する満足度の高さが反映されたものと思われる。 ・ 一方で、学年毎の評価に大幅な差がある項目が存在する点が気になります。項目 11「生活指導の方針に共感できますか」について、高校 1 年の評価が 50%を下回っております。類似している項目 5「学校の生活指導は適切ですか」についても高校 1 年の評価が最も低くなっております。高校 1 年が特に生活指導が厳しいのか、生活指導に対する理解が不十分なのか、あるいは高校 1 年が最も不満を持ちやすい時期なのか、アンケートのみでは理由までは判明しませんが、その理由を考えて指導に当たっていただきたいと思えます。 <p>（教職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 項目 16「科学分野において先進的な教育活動が行われている」がプラス評価 100%となっているほか、プラス評価 90%以上が 30 項目中 14 項目、ほぼ半数に達しており、教育や環境に対する自信がうかがわれます。教職員の方々が自信を持って教育にあたっておられることは、子供達にとっても良い影響を与えるでしょうから、大変うれしく思える内容です。 ・ 保護者と関係する項目である、項目 29「教育活動に必要な情報を積極的に収集し、生徒・保護者への周知に努めている」、項目 30「保護者と接する機会を多く持っている」においてもプラス評価 95%以上となっており、保護者としても有り難いことであると思えます。 ・ プラス評価が最も低いものは、項目 22「教職員間の相互理解、信頼関係に基づいて円滑に教育活動が行われている」の 67%です。教職員間の相互信頼関係が構築されてこそ教育活動が充実すると思われること、昨年度の 57%からは 10 ポイントの増加となっており年々プラス評価の割合が増加していることから、今後もプラス評価が高まるよう、教職員の連携・相談体制の構築や活用を期待します。 ・ ただし、今年度は教職員アンケートの回答数が昨年度よりも大幅に少なく、回答数の減少が結果に影響している可能性も否定できません。来年度以降のアンケートにおいては、昨年度以前の水準の回答を得られるよう対応いただきたいと思います。 <p style="text-align: right;">以上</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
①SSH、SGH、コース制の充実	(1) SSHの教育活動の充実 (2) SGHに準じた教育活動の充実 (3) コース制に伴う教育活動の充実 (4) 中学の教育内容の充実と進路意識の向上 (5) コース選択に関するガイダンスの実施	(1) 課題研究やその成果の発表、SS セミナー、サイエンスキャンプ、科学技術コンテストへの参加 (2) 課題研究やその成果の発表、グローバルセミナー、Stanford 大学オンライン講座、海外フィールドワーク(パラオ) (3) 探究活動の充実、コース別研修の企画・実施 (4) ア. 基礎基本の修得と定着の徹底 イ. キャリアデザイン進路講演会「ようこそ先輩」(中1、中2)、選択式進路講演会(中3) (5) ア. コース説明会(生徒対象、保護者対象) イ. 中学の保護者対象学年集会において説明	(1・2) 各教育プログラムの実施後の生徒アンケート (3) 高1、高2生の項目2が85%、項目4が85% (2019年度項目2が高1は84%、高2は81%、項目4が高1は81%、高2は81%) (4) ア. 中学生の項目4の肯定的評価が80% (2019年度77%) イ. 中学生の項目20の肯定的評価が90% (2019年度89%) (5) ア. 中1・中2で各1回 イ. 中学保護者の項目1の肯定的評価が90% (2019年度91%)	(1) 今年度も、科学技術、理科、数学に関する能力やセンスの向上に役立つ。科学技術・理科・数学の面白そうな取り組みに参加できる。課題研究、理数系の学習に対する意欲が更に向上する。理系学部の進学に役立つ。といった面で肯定的に捉えていた。(○) (2) 国際人として必要な教養が深まった、コミュニケーション能力が高まった、国際共通語としての英語が身についた。プレゼンテーションに自信が持てるようになった、といった項目で生徒の自己評価が高かった。(○) (3) 項目2の高1が89%、高2が89%であった。昨年度より5ポイント向上していた。項目4の昨年の平均が75%だったのに対し、高193%、高2が86%、全体の平均も90%と大幅上昇。コース別研修旅行については、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。課題研究やコースの特長を活かしたプログラムの充実が浸透してきているが、今後も生徒の満足度を維持できるように取り組んでいきたい。(◎) (4) ア. 中学生の項目4「授業が理解できている」の肯定的評価が、93%と大幅に改善した。(◎) イ. 中学生の項目20「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の評価が昨年度89%だったが、87%であった。学習指導を一層充実させていきたい。(○) キャリアデザイン進路講演会は新型コロナウイルス感染症により今年度も実施できなかった。 自己評価の項目4において、肯定的評価が98%であった。(○) (5) ア. 中1・中2で各一回計画通り実施した(○) イ. 項目1「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」の肯定的評価が92%と今年度も90%を上回る事ができた。学年集会などを通して学校の方針をより理解していただくよう努めていきたい。(◎)
②School Missionの達成と国際教育活動の展開	「Global Mindset」を持った次世代のリーダーを養うための教育活動の実施	ア. 次世代リーダー養成プログラム(英国研修、米国研修)の実施とプログラムの充実 イ. ターム留学(カナダ、アメリカに12月末～3月上旬まで留学) ウ. 特色教育としての英語教育の充実(中学1年生よりケンブリッジ英語の導入)、使える英語を身につけるための英会話の授業(オンライン英会話含む) エ. 英語4技能を測定するGTEC、ケンブリッジ英検の受検 オ. 言語活動の充実 カ. International Young Leaders Advancement Programme(GAコース) キ. コミュニケーション研修(中1) ク. グローバルセミナー ケ. 台湾研修(GAコース) コ. 海外の中等教育学校(延平高級中学:台湾、台南第一高級中学、ミンゼンティエー高校:パラオ)との提携と交流行事 サ. 海外フィールドワーク(GAコース:パラオ) シ. GLコースのキャリア教育の企画 ス. 次代を担う人物に求められる資質の教育活動を通しての具現化	・各プログラムの実施 ・自己評価において項目15「探究的な教育活動が行われている」の肯定的評価が75% (2019年度73%)	ア・イ. 新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。 ウ. 中学では英語を週8時間配当し、内2時間は英会話(中3ではオンライン英会話)、1時間は英語多読を実施した。(○) エ. オ. クは、計画通り実施した。有意義な研修が行えた。カ. キ. ケ. コは、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。 サ. 新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの実施に変更した。 シ. キャリアデザイン進路講演会は新型コロナウイルス感染症により実施できなかった。自己評価の項目12において、肯定的評価が86%であった。(○) ス. 学習面では資質・能力の育成を明確にすべく各教科で長期的なルーブリックを作成している。特別活動・学校行事などに関連させ、「身につけたい10の資質」を伸長させたい。(○)

<p>③ 高大連携の教育プログラムの充実</p>	<p>高大連携の教育プログラムの開発</p>	<p>ア. 大阪医科大学…SSH事業への支援、SGH事業への支援、基礎医学講座、医学部実習(メディカルサイエンストレーニング)、最先端医学教室 イ. 大阪薬科大学…サマーサイエンスプログラム、基礎薬学講座 ウ. 京都大学…SSH、SGHの活動における連携 エ. 大阪大学…SSHの活動における連携 オ. 大阪工業大学…SSHの活動における連携 カ. 東京大学…SSHの活動における連携 キ. 大阪市立大学…博士課程の学生による課題研究の支援 ク. 京都工芸繊維大学…SSH活動の連携 ケ. SSH事業での大学研究室訪問 コ. GAコースにおける海外大学との交流プログラム a) スタンフォード大学国際異文化教育プログラム b) ケンブリッジ大学学生とのリーダーシップ研修 c) 台湾研修における国立台湾大学、台北医学大学での研修 セ. GSコースにおける海外大学との交流プログラム a) 台湾研修における国立交通大学、台北医学大学での研修</p>	<p>・各連携事業の実施 ・高1、高2生の項目22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていていると思う」の肯定的評価が75%。(2019年度高校生73%)</p>	<p>・大阪医科大学、大阪薬科大学との高大連携プログラムが充実したかたちで実施できた。(◎) ・他大学との連携プログラムについても概ね計画通り実施した。(○) ・スタンフォード大学国際異文化教育プログラムと連携したスタンフォードe-takatsukiを計画通り実施できた。(○) ・GSコースの台湾研修は、新型コロナ感染症の影響により実施できなかった。 ・GLコースにおいて、立命館大経営学部との連携事業「アントレプレナー講座」をオンライン併用で開講し、6名が受講した。(○) ・項目22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていていると思う」の肯定的評価が高1、88%、高2、86%と生徒の満足度が高かった。(○)</p>
<p>④ 「探究型学習の充実と資質・能力の三つの柱の育成</p>	<p>(1) 高校生の「探究型」学習の充実と中学生段階での素地作り (2) 資質・能力の三つの柱の育成</p>	<p>ア. GSコースにおけるSS課題研究 イ. GAコースにおけるグローバル課題研究 ウ. GLコースにおけるクリティカルシンキング エ. 中1総合学習で行う学びのリテラシー オ. 中2総合学習で行う課題解決型学習 カ. 各教科における言語活動(プレゼンテーション、グループ発表、ディベート)の実施 キ. e-ポートフォリオの作成指導 ク. 学修インタビュー(中学1年～高校2年)</p>	<p>・各教育プログラムの実施 ・自己評価において項目6「各教科の見方・考え方を働かせながら、知識を関連づけて、考えを形成したり、解決策を考えたり、創造したりする深い学びが実現できている。」の肯定的評価が80%(2019年度80%)</p>	<p>アからキの項目を実施した。クは、新型コロナ感染症の影響により実施できなかった。 ・自己評価項目6が93%であった。次期学習指導要領の目標に対応させながら教育活動の充実と資質能力の向上を図っていききたい。(○)</p>
<p>⑤ 高い学力が確かに身につく指導と成果の検証</p>	<p>到達目標 (A) 難関国立10大学合格者130名 (B) 国公立医学部+大阪医大合格者40名 (C) 中学卒業時の英語力50%が英検2級</p>	<p>(1) 進学実績の飛躍的な向上を図るための取り組み ア. 各学年が取り組む学力向上策 (2) 中学段階における学習指導の徹底 ア. セルフマネージメントプランナーを積極的に活用し学習習慣の向上を図る。 イ. 家庭学習時間2時間以上を徹底する。 (3) 進路指導部主導による学力向上 ア. 模試結果のフィードバックをもとにした復習。模試における目標の明確化。 (4) 学習指導部主導による学力向上 ア. 日々の学習での基礎基本の徹底 イ. 好ましい学習習慣を身につけるための指導 (5) オンライン教育の有効活用 (6) 大学入試対策放課後講座(アフタースクールアカデミック(AA)講座)の更なる充実と受験対策の強化 (7) 進路意識を向上させるキャリア教育の充実 (8) 高3三学期の受験指導の強化</p>	<p>(1) 各学年の学習到達度の状況と学力向上策の成果について、学期毎に検証する (2) 中学生の評価において項目18「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の肯定的評価が85% 項目20「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の肯定的評価が75%(2019年度項目18が81%、項目20が89%) 中学卒業時の英検2級合格率50%以上 (3)(4) 高校生の評価において項目20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が75%(2019年度64%) (5) 中3～高2で実施 (6) 高2高3で実施 (7) 中1、中2、高1で講演会を年1回実施 (8) 二次対策講座の組織的な開設</p>	<p>(1) 各学年で年間計画を立て学期ごとに職員会議で報告を行った。京都大学をはじめとする難関大学への進学実績がやや向上した。(△) (2) 「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の項目が86%とさらに上昇し、「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」も87%であった。(◎) 中3卒業時点お英検合格者2級51.2% 準2級37.8%で今年度もベンチマークを達成した。 (3)(4) 高校生の項目20が88%と大幅に向上した。好ましい学習習慣、その基礎となる生活習慣を身につけられるよう指導を継続し、学力保障と進路実現を図っていききたい。(◎) (5) 主に英会話の授業で活用することができた。新型コロナの影響で休校となった4月から5月にかけて、早急にオンライン授業を実施することができた。(○) (6) 高1から高3を対象に実施した。参加者は少なかったが、発展的な内容を取り扱う学期中講習と基礎的な内容を固めるAA講座というすみ分けを図り、生徒のニーズに応えることができた。(△) (7) 新型コロナの影響で講演会は実施できなかった。特に中学生の項目19は71%→78→84%→88%→88%、項目20は60%→65%→74%→89%→87%と進路意識を向上させることができていている。(◎) (8) 三年前より卒業式の日程を3月上旬近くに設定し、センター試験後の受験指導を強化できた。(○)</p>

<p>⑥ 徳育教育の充実</p>	<p>(1) 生活の基本を大切にす指導の徹底 (2) 平和学習を目的とした修学旅行の実施 (3) 道徳教育の充実 (4) 人権教育の推進</p>	<p>(1) 生活の基本を大切にす指導の徹底 ア. 服装 イ. 挨拶 ウ. 清掃活動←毎日清掃指導+週2回の全校清掃の実施 (2) 平和学習を目的とした修学旅行(中3) (3) 中学3年間を通した系統だった道徳教育 (4) 年間計画に基づく人権教育 ア. 毎学期1回人権LHRの実施 [各学年のテーマ] 中1: 他者を理解し、尊重する心を持つ 中2: 心身に障がいのある人々の人権を考える 中3: 「沖縄」を通して、平和と人権問題について考える 高1: 民族問題、人種問題について理解を深める 高2: 在日外国人問題を中心とした人権問題 高3: 進路と人生に関する人権問題</p>	<p>(1) 生徒の評価において項目 中学11 高校10「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」、中学13「基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われている」の肯定的評価が中学生・高校生ともに75%(2019年度中学11が49%、高校10が85%、中学13が66%、高校12が55%) 自己評価において項目24「清掃活動が行き届いている」の肯定的評価が75%(2019年度72%) (2) 系統だった平和学習の実施 (3) 中学生の評価において項目26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が85%(2019年度84%)。 (4) 高校生の評価において項目26の肯定的評価が75%(2019年度68%)</p>	<p>(1) 生徒の評価において項目中学11 高校10「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」が、中学75%→80%→49%→91%、高校53%→68%→85%→82%であった。中学生全体の数値は大幅に改善した。基本的なルールを全校で統一して指導し、きちんとした生活習慣が身につくよう指導していきたい。(○) 自己評価において項目24「清掃活動に充分取り組んでいる」の肯定的評価が62%→72%→81%と上昇した。清掃指導の強化・全校清掃・大掃除などの実施が定着している。(○) (2) 新型コロナの影響により、事前研修は行ったが、現地での平和学習が実施できなかった。 (3) 項目26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の項目は中学が77%→87%→84%→95%であった。より充実した人権教育ができるよう努めたい。(◎) (4) 高校生の項目26の評価は63%→73%→68%→84%であった。望ましい人権感覚が身につくよう、教育を継続していきたい。(○)</p>
<p>⑦ ボランティア活動の推進</p>	<p>ボランティア活動を行うための体制作りと活動支援および活動内容の充実</p>	<p>(1) ボランティア活動支援センターの体制確立 (2) ボランティア委員会(生徒の組織)の校外・校内における社会貢献活動 ア. 日本青年赤十字との連携 イ. 大阪医科大学との連携 ウ. インターアクトとの連携(地域連携) エ. 校内・校外企画 (大阪マラソンボランティア等) (3) 生徒募集イベントにおける「T-BEST」メンバーのボランティア活動</p>	<p>(1) 年度末報告 (2) 35名による活動 ア. 年16回 イ. 年15時間 ウ. 年5回 エ. 年5回 (3) 計7回のイベントに延べ130名が参加</p>	<p>(1) ボランティア委員会への指導・助言、外部連携機関との調整・取りつきを行なう体制が十分に確立されている。(◎) (2) ボランティア委員会に所属する中2以上の生徒52名が、随時参加し、ボランティア活動の充実を図っている。(○) 新型コロナの影響を受け中止になった取り組みもあるが、オンライン等での参加も含め積極的に参加することができた。 (3) 新型コロナの影響で、2学期からの活動になったが学校・入試説明会、オープンキャンパス、計5回の活動に登録者131名が分担して積極的に参加し役割を果たした。今後活躍の機会を増やしていきたい。(◎)</p>
<p>⑧ 指導力および資質の向上</p>	<p>教員の指導力および資質の向上</p>	<p>(1) 研究授業の実施(年2回) (2) アクティブラーニング研修(全教員+各教科の推進メンバーを対象としたワークショップ) (3) 公開研究会の実施 (4) 学びあい週間の実施 (5) 国語科教育顧問による研修 (6) 教員向け人権研修会 (7) いじめ防止教員研修会 (8) 5年経験者研修 (9) 新人研修</p>	<p>(1~2) 自己評価において項目27「他の教員の授業を見学する機会がよくある」の肯定的評価が80%(2019年度79%) (3) 年1回 (4) 年1回 (5) 年2回 (6) 年1回 (7) 年1回 (8) 年間を通じて4項目実施 (9) 年間を通じて全15回</p>	<p>(1~2) 自己評価の項目27「他の教員の授業を見学したり研修を受けたりする機会がよく設けられている」が67%→82%→79%→88%であった。全員が積極的かつ自主的に研修に参加するよう促し、指導力の向上を図りたい。(○) (3~9) の研修を概ね計画通り実施できた。 一部、新型コロナの影響を受け、実施できないものもあった。(△)</p>
<p>⑨ ICT活用教育の推進</p>	<p>BYODによるICT教育の充実</p>	<p>ICT活用教育推進委員会を中心としたICT活用教育の推進・環境整備・指導体制の構築を図る ア. メディアリテラシーを含めた教育体制の構築 イ. 学習用デバイスの使用に関するルールの改正 ウ. 校内環境の整備、システムの構築 エ. ICT活用教育推進委員会とAL推進チームとの共同による教員研修、生徒支援、広報活動</p>	<p>・推進委員、中1学年団を対象とした教員研修の実施 ・教員、生徒のICT活用を支援する体制の確立</p>	<p>・ICT活用の教員研修を実施し、指導体制を整えることができた。今後は各教員のスキルやニーズに応じて、より実践的な研修の機会を設け、更なる活用を進めたい。(○) ・メディアリテラシー教育の重要性がますます高まっていることから、デバイスの使用ルールなどについて改訂を継続的に行い、現状に即した指導を行っていく。 ・ICT支援員(テックスタッフ)の協力を得ながら教員、生徒のデバイス活用の体制が整った。(○)</p>